

防災・減災体制の強化 (SNS災害情報自動収集・解析システムの導入など)

アナ: 「市長が語る2023三島」第11回の今日は、「防災・減災体制の強化」についてお話を伺います。豊岡市長、よろしくお願いします。

市長: よろしく申し上げます。

アナ: 今年度、三島市では防災・減災体制をより一層強化するため、新たなシステムを導入すると伺っていますが、一体どのようなシステムなのでしょうか。

市長: 日頃から、ツイッターやインスタグラムなどのSNSを利用されている方もいらっしゃると思いますが、SNS上に投稿された災害情報を自動で収集・解析するシステムの導入を予定しています。

「三島・洪水・停電」など、場所や事象をキーワードで絞り込むと、関連する情報を即座に分析して表示できるシステムです。

アナ: どうしてこのようなシステムを導入することになったのでしょうか。

市長: 総務省の調査では、SNSを利用している人の割合は年々増加し、令和3年の時点で78.7%に上るという結果が出ておりまして、災害時の情報収集にSNSを活用できるのではないかと考えました。

これまで災害時の情報収集は、市民の方からの電話による通報や消防団員による巡回などが主な手段でしたが、SNS上でも災害情報を入手することで、迅速な支援や的確な避難情報発令の判断材料につながることを期待しています。

特に、災害発生時のSNSへの投稿には、被災場所の位置情報や画像データが付いていることも多く、災害対策本部において災害対応の優先度を判断するのに役立つと考えています。

アナ: SNSは投稿者が自由に発信できるため、情報の真偽には注意を払う必要があると思いますが、対策はあるのでしょうか。

市長: 確かに、過去の災害時には、残念なことに、悪質な虚偽の情報や加工されたフェイク画像がSNS上に拡散される事態が度々発生しています。

このような虚偽の情報を排除するため、導入を予定しているシステムでは、AI技術により、過去に投稿された情報と比較したり、画像に加工の形跡がないかなどを分析し、真正と判断された情報のみをシステム上に表示する機能が備わっております。

また、単独の情報だけを鵜呑みにすることなく、従来の通報や巡回などによる情報と照らし合わせたり、職員が実際に現場を確認することも必要であると考えています。

アナ: 最新のデジタル技術と従来からの手法を組み合わせることで、より迅速で正確な対応が可能となり、市民の方々の一層の安全・安心の確保に

つながるのですね。

この他に、今年度、防災・減災対策として新たに取り組みられる事業はありますか。

市長： 現在、本格的な出水期を迎えています。近年、日本各地で甚大な水害や土砂災害が発生しています。

水害や土砂災害から命を守るためには、ハザードマップで自宅や学校、勤務先など皆さんが普段、過ごすことの多い場所について、浸水や土砂災害の恐れがあるかどうかを確認しておくことが重要です。

三島市ではこれまで、紙のハザードマップをお配りしていましたが、いつでもどこでも災害の危険度を確認していただけるよう、パソコンやスマートフォンで自由に拡大・縮小、印刷ができるWEB版ハザードマップを導入いたします。

WEB版ハザードマップが完成しましたら、市のホームページで公開いたしますので、いざというときのために、ご活用いただければ幸いです。

このほかにも、引き続きの取り組みになりますが、

『三島市版マイ・タイムライン』の作成をお願いしております。

マイ・タイムラインとは、これから起こるかもしれない災害に対し、あらかじめ、ご自身の状況に合わせて、時系列でやるべきことを整理した自分自身の避難行動計画のことです。

誰でも簡単に作成ができる穴埋め式となっており、ホームページなどでも公開していますので、ぜひご家族などで作成してみたいと思います。

アナ： WEB版ハザードマップが完成しましたら、私もぜひ拝見したいと思います。
豊岡市長、本日はありがとうございました。

市長： ありがとうございました。